

フードマイレージを活用した農産物の地産地消の普及の可能性

藤澤ゼミ 2015年度卒業 N. I

1. はじめに

フードマイレージとは、輸送距離と重量で数値化した考え方である。具体的には、食材が生産地から消費地までの輸送に必要とする燃料・二酸化炭素(CO₂)の排出量を指す。この数値が、大きければ大きいほど、環境に負荷を与えている。フードマイレージを表示することで、消費者が環境にやさしい財を選択し、農産物の地産地消の普及につながっていくといわれている。

2. 目的

本研究の目的は、商品にフードマイレージの表示を導入することによって、消費者の財の選択が変化するかを検証することである。

3. 調査方法

大学生を対象に大学内で紙面によるアンケート調査を行った。2015年11月16日(月)~11月18日(水)に告知して実施した。そこで、回答者に外国産と国産のアスパラガスに関する3つの表示方法(A:価格のみ表示、B:CO₂排出量表示、C:全て)を見せて、環境情報表示の有無(表1)で、選択の変化があるかどうかを確認する。

4. 結果・考察

サンプルサイズは130人であり、データクレンジングの結果、欠損値はあるものの全数を使用した。Bの表が選択された場合、約35%外国産から国産選択に変化した。Cの表でも同時に、約34%変化した。国産を選択した行動変化の理由は、「国産のCO₂排出量が少ないから」という意見が多かった。国産を選択しなかった主な理由としては、「外国産の方が安いから」という意見が最も多かった。図2より、Aを基準としたとき、BとCのどちらの表示が分かりやすいか質問したところ、Bを選択して回答した人が約49%、Cが約42%という結果であった。

以上から、商品にフードマイレージの表示を導入した方が、人々にとって認識しやすいこと

が示唆された。ただし、Cより評価の高いBについては、先に表示されたという順番のバイアスの可能性がある。いずれにしても、環境情報が表示されることで、行動に変化があったことが確認できた。

表1:アンケートで使用した各表の一覧

A	オーストラリア産 ¥158	北海道産 ¥212
B	オーストラリア産¥158 CO ₂ 排出量 34g	北海道産 ¥212 CO ₂ 排出量 13.9g
C	オーストラリア産¥158 ・マイレージ 0.8084t/km ・CO ₂ 排出量 34/100g	北海道産 ¥212 ・マイレージ 0.0835 t/km ・CO ₂ 排出量 13.9/100g

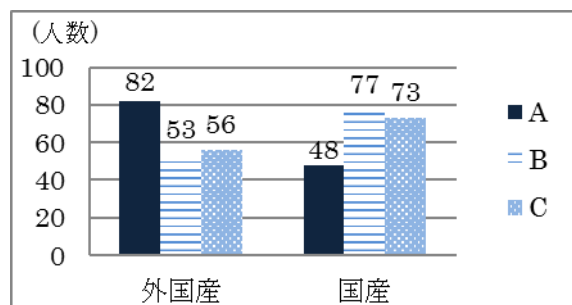


図1:A、B、Cの外国産と国産の購入者を比較

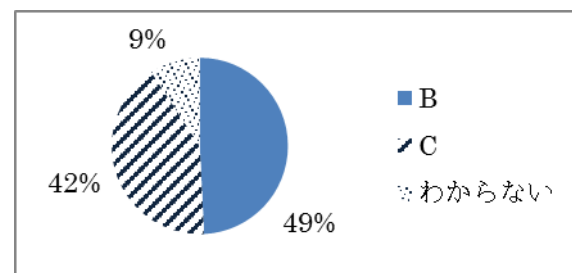


図2:B、Cの理解者数の比較

5. おわりに

フードマイレージ表示により、消費者の行動が変化するということが示唆された。現在、TPPにより低価格の農産物が増加することが予測される中、地産地消を促進するためにも、農産物の表示の工夫が求められる。

(参考文献等)

- ・農林水産省「フードマイレージについて」(アクセス年月日 2015/11/2) <http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/goudou/06/pdf/data2.pdf#search>